

# チョウ、ガ一堂4000点

個性あふれるガやチョウが集まった企画展



## 弘大資料館で標本展

**弘前**  
弘前大学資料館で9月24日まで、第30回企画展「蝶と蛾の多様性を見よー」が開かれている。世界や日本のチョウ、白神山地に生息するガの標本4

000点近くが展示され、カラフルな色合いや美しい模様など、個性あふれるその姿を間近で見ることが出来る。同大は「せひ子どもたちにも見に来てほしい」と呼び掛けている。  
(西尾英)

## 色合いや大きさ「多様性感じて」



美しい色が目を引くアゲハチョウ

弘大農学生命科学部附属白神自然環境研究センターのコレクションを一堂に集めた初の展示となる貴重な機会。  
チョウは、県内の愛好家から寄贈された世界のチョウや、本県などで見られる種を展示。美しい色合いの

アゲハチョウやモルフオチョウなどが目を引く。ガは2018年からセンターが行っている調査で採集したものを展示。白神山



おしゃれな色合いのガ

地では大きいものだと少なくとも1000種以上がいると考えられており、今回約3000点を展示。開張(羽を広げた大きさ)1・6センチのトビイロシマメイガから、開張12・3センチのヒメヤマユまで大きさはさまざま。羽もピンクや金、黄緑など色とりどりで、模様や形も前羽が葉を模したアケビコノハなど個性が光る。  
展示についてセンター長の中村剛之教授は「まずは多様性を感じてほしい。特にガに偏見を持たずのぞいてもらえれば、きっと驚くと思っています。会場ではこのほか、東北地方で絶滅したオオルリシジミやオ

オウラギンヒョウモンの標本、近年本県に侵入し定着したチョウ類なども展示しており、中村教授は「ここ20〜30年の間に数々が入れ替わっていることになる。これはチョウだけではなく、これからも加速し

ていく。変わっていくものを知ってほしい」とした。  
開館時間は午前10時〜午後4時で、日曜、祝日、8月11〜16日は休館。問い合わせは、同資料館(☎0172-3432)へ。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp